



下半田川村の高札

さなげ道の道標

# せと 歴史と文化財を知る見学会 「瀬戸の街道・道標」

主催：せとモノがたりの会・瀬戸市・(公財)瀬戸市文化振興財団

日時：令和7年3月20日(木・祝)

見学コース：①(北地区)

(予定時間) 午前9時 文化センター北駐車場出発  
 9時20分 殿様街道(横笛嶺)現地説明  
 9時50分 下半田川村高札場現地説明  
 10時50分 石粉の道の馬頭観音現地説明  
 11時30分 文化センター北駐車場到着・解散

②(南地区)

午後1時30分 文化センター北駐車場出発  
 1時45分 さなげ道道標現地説明  
 2時20分 菱野町の道標(道祖神)現地説明  
 2時50分 横山街道(信州飯田街道)現地説明  
 3時25分 信州飯田街道(追分)現地説明  
 4時00分 文化センター北駐車場到着・解散

## 瀬戸市域の主な指定・登録文化財

本地大塚古墳(西本地町2丁目)

宮地古墳群(上之山町2丁目)

広久手30号窯跡  
木造十一面観音菩薩立像(下半田川町) 県  
木造阿弥陀如来立像(下半田川町) 県

古瀬戸瓶子(寺本町)

陶製狛犬(深川町) 国

瀬戸窯跡【小長曾窯跡】(東白坂町) 国  
永享年銘梵鐘  
聖徳太子絵伝(塩草町)

定光寺本堂(定光寺町) 国  
織田信長制札(窯町)  
菱野郷倉『大般若経』[一部鎌倉]  
瀬戸窯跡【瓶子窯跡】(凧山町) 国  
源敬公廟(定光寺町) 国  
笠原村・両半田川村国境争論絵図(東松山町)  
石造地藏菩薩立像(片草町)

大目神社本殿(巡問町) 国登  
陶質十六羅漢塑像(寺本町)  
六角陶碑(藤二郎町)  
旧山繁商店(仲切町・深川町) 国登  
瀬戸永泉教会礼拝堂建造(杉塚町) 国登  
陶製梵鐘(深川町)

## やきもの生産の変遷

## 今回見学する文化財とその関連年表

古墳	5世紀	飛鳥	須恵器	1482(文明14) 品野城主永井(長江)民部が今村城主松永広長と戦い勝利
	6世紀			
奈良	7世紀	平安	灰釉陶器	1529(享禄2)頃 松平清康が品野城を奪取
	8世紀			
	9世紀			
鎌倉	10世紀	南北朝	古瀬戸	1650(慶安3) 初代尾張徳川藩主徳川義直が逝去(1652年源敬公廟建造)
	11世紀			
室町	12世紀	戦国	大窯	1725(享保10) 水野大橋の整備(新しい殿様街道の使用)
	13世紀			
江戸	14世紀	安土・桃山	製器品	1837(天保8) 山口上之山さなげ道道標建立
	15世紀			
近代	16世紀	(明治)	連房	1857(安政4) 菱野町の道標(道祖神)建立
	17世紀			
(昭和)	18世紀	製器品	1867・68(慶応3・4) 下半田川村高札(最終掲示)	1890(明治23) 信州飯田街道の片草付近が付け替えられ、中馬街道と呼ぶようになった
	19世紀			
	20世紀			1904(明治37) 石粉の道の馬頭観音(東山路町)建立

# 瀬戸の街道・道標 令和6年度看板設置箇所位置図



地図に江戸時代以前のルートとともに記載された街道名は、文献等に記載された名を記載し、( )内に通称名を記載した。

 令和6年度看板設置「瀬戸の街道・道標」

※今回のせと歴見学箇所  
(午前：赤色塗り、午後：オレンジ色塗り)

## 瀬戸の街道・街路

瀬戸市域は、愛知県西部である旧尾張国の北東端に位置し、北東には旧美濃国、南東には旧三河国と接する国境のエリアである。国を跨ぐ街道は、市域では尾張の中心である名古屋から美濃方面に抜ける街道(定光寺街道(殿様街道)・笠原街道、信州飯田街道(中馬街道))や、名古屋から三河方面に抜ける街道(三州街道(三州小原道・三州広見道・三州八草道、山口道))がみられる。また、江戸時代に徳川将軍が代替わりするたびに諸国に使わされた巡見使が通った道を「巡見道」と呼んだが、尾張平地部の主要地点を巡る道路網は、庶民の生活でも利用された。このほか街道と街道を結ぶ道や、村や集落どうしをつなぐ小規模な里道・街路によって人々の生活は支えられた。

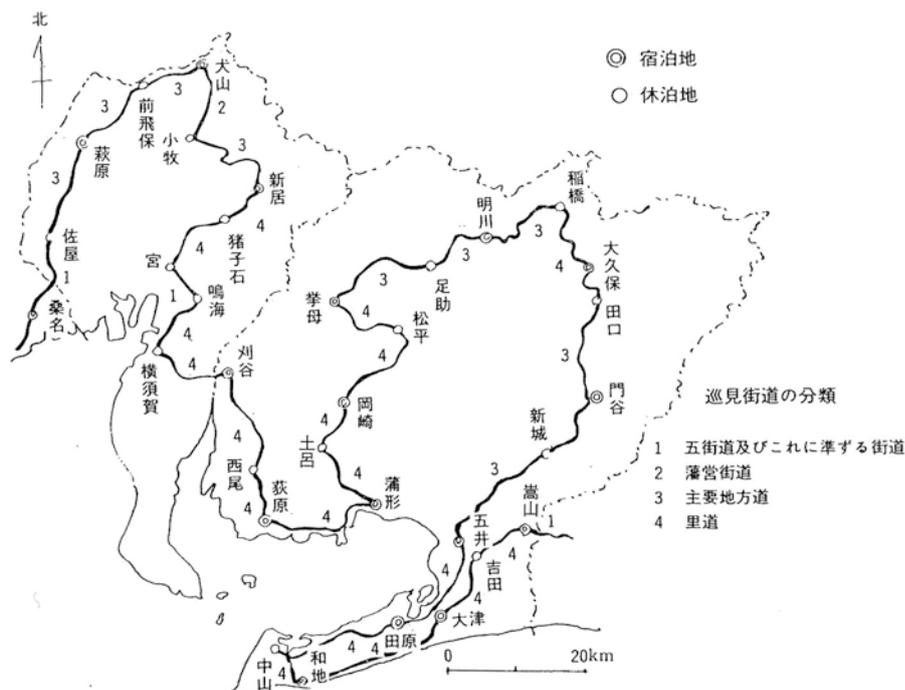
信州飯田街道(中馬街道)では、名古屋から来る「海や里の荷」である塩・味噌・木綿・乾物や、信州・美濃(東濃)から来る「山の荷」である薪炭・木工製品・生糸・葉煙草などの荷が人馬の往来によって行き来した。古くは馬の鞍に振り分けた荷物を背負わせたコンダ馬を引く馬方や馬車引きが街道を行き交っていた。街道の坂瀬坂より東の山道は、馬車では通過できずコンダ馬などによって物資の往来がなされた。

窯業で栄えた旧瀬戸村や赤津村、下品野村などでは、山間地から陶磁器の原材料や燃料が搬入され、ここで生産された陶磁器(近代以降は電磁器も加わる)や瓦などが各地に搬出された。

信州飯田街道が地区内を走っていた今村(この区間は瀬戸街道・横山街道と呼ばれる)では馬車引き・馬方と呼ばれる運送業が盛んだった。戦前は名古屋まで陶磁器や米などを運び、帰りに石炭・亜炭を積んで帰ってくる。戦後、馬車引きは姿を消したが、馬車引きから本格的な運送業に転業する家もあった。

### 【参考文献】

瀬戸市 2001『瀬戸市史 民俗編』  
末吉順治 2020『輸出陶磁器と名古屋港』中日出版



尾張・三河地域の天保巡見使の経路  
(桜井芳昭 1989『吉良町史』資料1より)

## 2401 下半田川村高札場 こうさつば

寛政4（1792）年と天保12（1841）年の村絵図には、当時尾張藩より出されたお触れが書かれた高札の位置が記されている。この場所は現在花川橋たもとの民家前であり、水野村や名古屋方面から美濃へ通じる後に建てられたものと伝えられている。街道北側で、人通りの多い所であったことがうかがえる。

下半田川町民会館には、ここに掲げられた江戸末期から明治維新の時期の高札4枚が残されている。

これらの内、慶応4年1月に掲げられた御触書の内容は、徳川慶喜が大政を朝廷へお返しして將軍の職を辞する旨願い出たにもかかわらず、それを裏切って大阪城に立てこもってしまった。それにより新政府との間に戦いが始まったが、民は平静を保ち、旧幕府方に追随することのないようにとの新政府側からの仰せを固く守りなさいという旨の通達である。



天保12(1841)年下半田川村絵図  
((財)徳川黎明会蔵)



慶応3年10月の御触書



慶応4年1月の御触書

## 2402 殿様街道（横笛嶺<sup>とおげ</sup>）

定光寺の源敬公廟は初代尾張藩主徳川義直公の墓所であり、歴代の藩主が参拝するときに通った道は定光寺街道（殿様街道）と呼ばれている。名古屋城を出発した藩主たちの行列は総道程約六里（24 km）の道のりを、善光寺街道から瀬戸街道へと進み、新居村八瀬の木（つんぼ石）から柏井峠を越して中水野村へ入り、石坂や横笛嶺を越して定光寺へ向かう。このうち八瀬の木から定光寺までの約三里（約 11km）の道程が殿様街道である。

ただ江戸時代の文献には殿様街道という街道名は著されておらず、定光寺街道・定光寺御道筋・御成筋・往還通りなどの様々な名称を用いて記されている。この殿様街道の道筋は古くから存在し、古くは「笠原街道」と呼ばれ、徳川義直も遊獵時にたびたび利用した。

看板を設置した丸根山の山頂は、殿様街道随一の難所であるが、玉野川を一望に見渡せる「横笛嶺」という景勝地であると『尾張徇行記』にも記されている。



石坂の石畳



横笛嶺（丸根山山頂）からの展望



殿様街道（定光寺街道）の道程

## 2403 ニョウライサンの辻

「ニョウライサンの辻」の石仏群は、地元では皮膚病を治すご霊験があるとされている。辻の東側の石塔群は左から地蔵菩薩・弘法大師・三体地蔵(木ノ本地蔵)・地蔵と並び、南端の石祠には風化が激しい石造仏が納まる。辻の西側には自然石の石積・庚申塔・祠・手水石がみられる。

「ニョウライサン」は「(薬師)如来さん」が転化した言葉とも考えられるが、西側石造物群の右端の祠の中の石碑には「直来宮」と刻まれ、このナオライがニョウライサンの語源の可能性もある。

昔はこの辻が信州飯田街道(中馬街道)と三州街道を結び、中品野から赤津を経て三河に通じる道となっていた。

### 【参考文献】

瀬戸市教育委員会 1982『瀬戸の石造物』

せと・まるっと環境クラブ 2019『岩屋堂ガイドブックⅡ改訂版』



ニョウライサンの辻と周囲の街道・道路



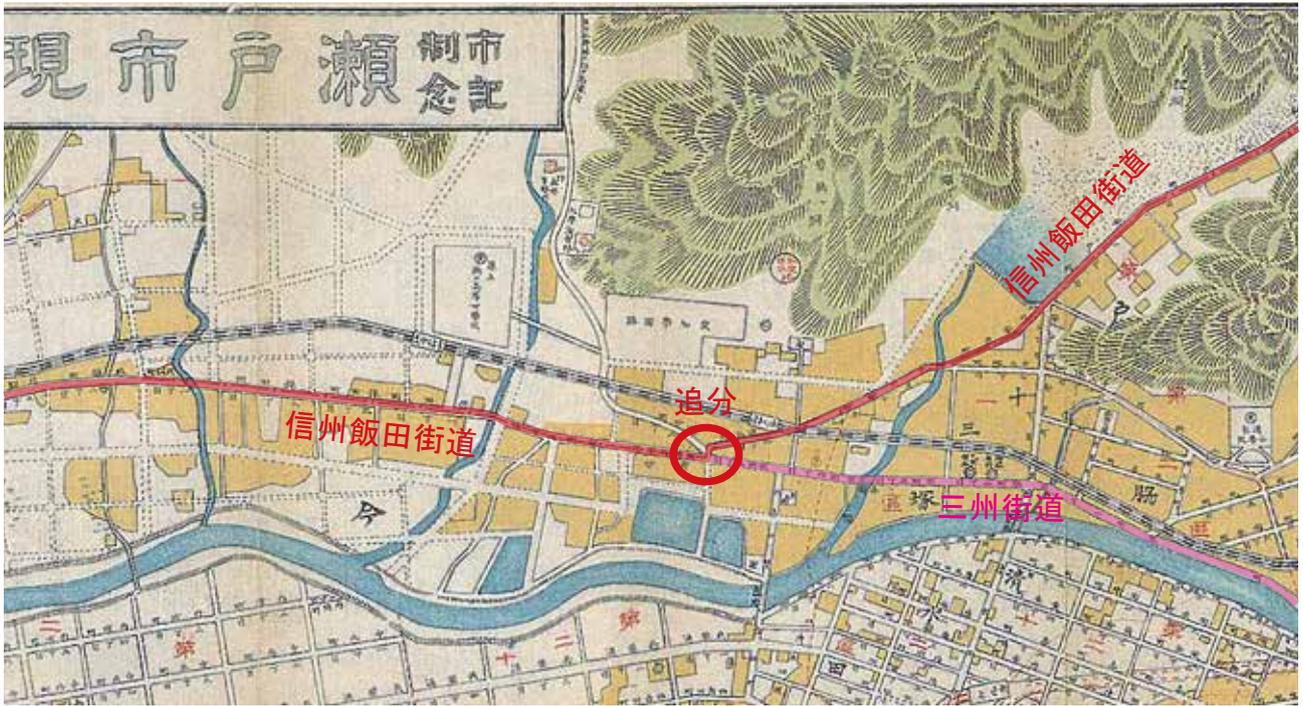
ニョウライサンの辻 西側石造物群



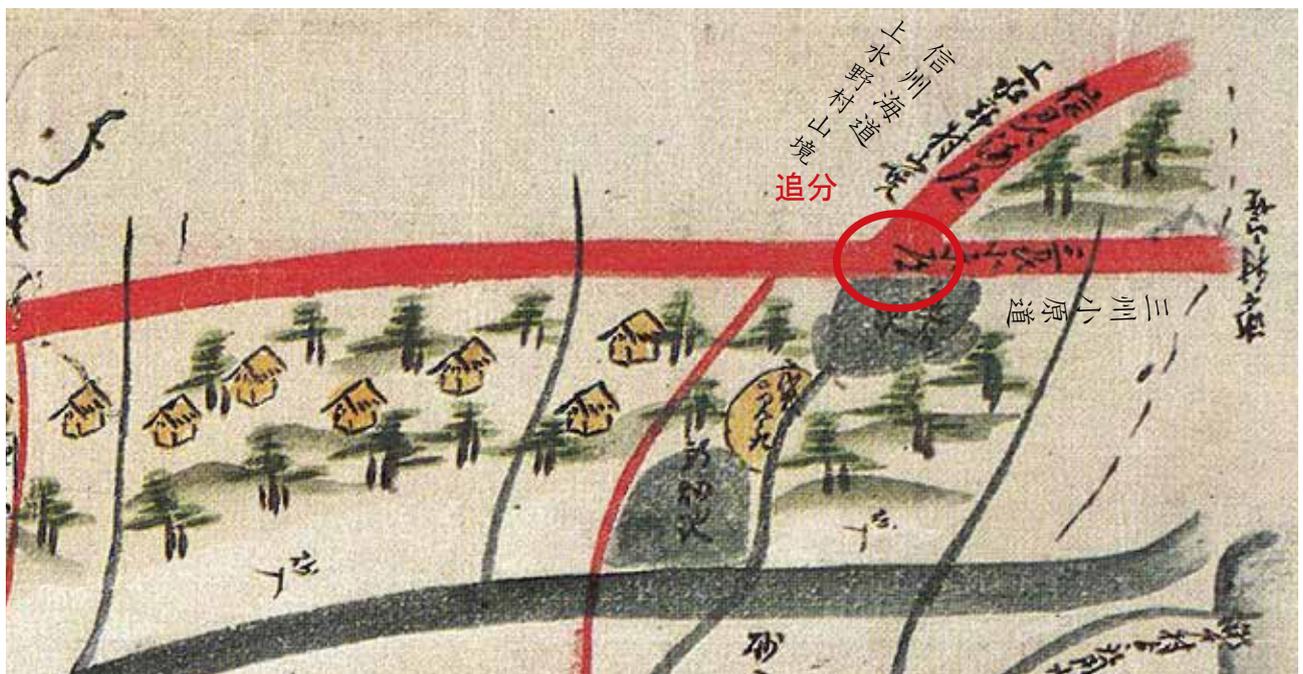
ニョウライサンの辻 東側石造物群

## 2404 信州飯田街道（追分）

名古屋城から始まり、この追分交差点を北東に進み、十三塚、上陣屋、印所、現在の暁工業団地の東を通り、品野の全宝寺へ抜けていた道は、信州の飯田へ通じる街道で「信州飯田街道」と呼ばれていた。この追分から東へ分かれる道は「三州街道」で、「三州小原道」「三州広見道」「三州八草道」に繋がっていく。また、運送用の馬をつなぐ継馬が行われていたことから、後に「中馬街道」ともいわれた。名古屋大曾根から瀬戸村までの道のりは「瀬戸街道」、「名古屋街道」といわれるなど、時代や場所によって様々な呼称がある。



『昭和4年施行瀬戸市制記念 瀬戸市現勢全図』に信州飯田街道・三州街道を重ねる



『春日井郡今村絵図面』寛政4年(1792)に描かれた信州飯田海道・三州小原道

## 2405 石粉の道の馬頭観世音

江戸時代以降、瀬戸で志野焼の生産が始まると、釉薬となる長石（石粉）の需要が拡大し、瀬戸には各地から石粉が運ばれるようになった。特に猿投山南部は石粉の主産地で、瀬戸への出荷には、距離は長いが平坦なコースの山口を経る経路が使われ、荷が軽くなった帰路は山路から山上峠を越える最短ルートが使われた。足の遅い牛を使うときは往復ともに山上峠を越えた。そのような中、瀬戸と豊田の境界に位置する山上峠は尾根が7メートルほど掘り下げられ、牛馬の安全が図られた。

猿投山南部には多くの水車が設置され、長石を粉砕して生産された石粉は『広見長石』と呼ばれていた。水車が杵式からトロミル式に変わると生産量が拡大し、瀬戸への出荷は頻繁に行われた。瀬戸へは薪炭なども頻繁に運ばれており、第二次世界大戦後、瀬戸からの食料の買い出しに、この道が使われることもあったという。加納川の中ほどにダムが造られ、道が水没したことにより、現在車両は通行できない。

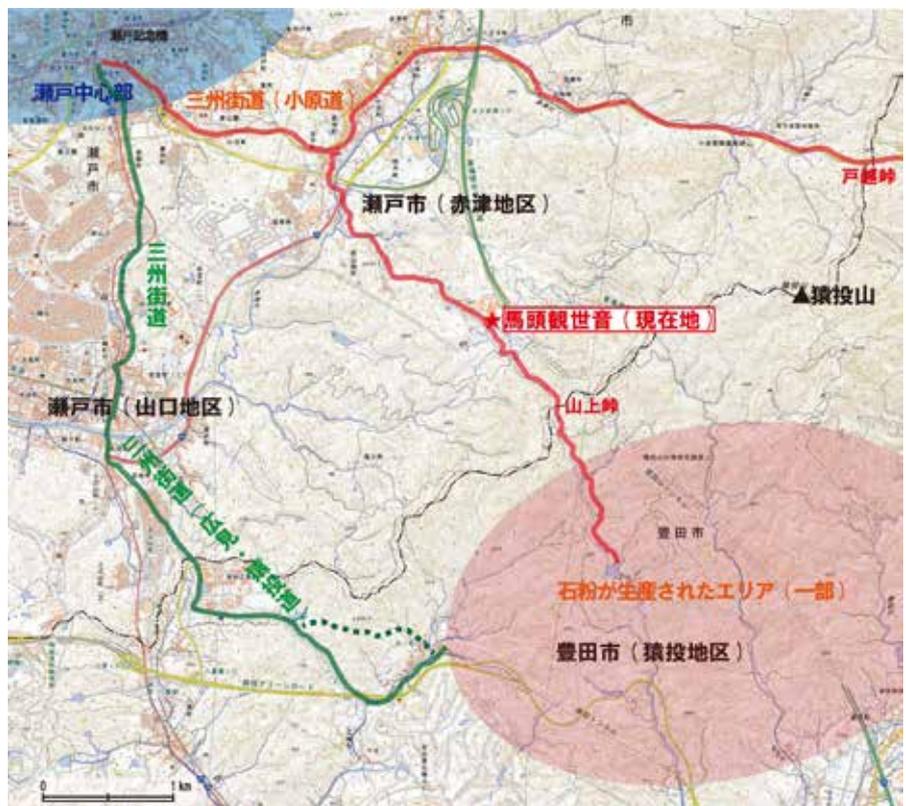
この馬頭観音には明治37(1904)年と刻まれていて、馬方らが休憩をとり、山道に入る前に安全を願って手を合わせていたと言われている。またここから南東に分岐する道には津島社があり、その先は小長曾を経て藤岡地区に至るルートであり、そちらへ向かう馬方もここで一服していたとの証言がある。

### 【参考文献】

山本龍夫 1988 『石粉の道』  
加藤恬 2003 「赤津」『瀬戸市  
史民俗調査報告書 3 赤津・瀬  
戸地区』  
瀬戸市立東明小学校百年誌編  
纂員会 1975 『東明小学校百  
年誌』



馬頭観世音(文字塔)



猿投山南部と瀬戸・赤津地区の往来関連地図

## 2406 さなげ道（山口合宿猿投神社祭礼の道）

この道標には「左 さなげみち 右ハいぼ ころも」とあり、ここは広見村を經由し、猿投神社へ通じる道と、八草村を經由し、伊保・挙母村へ通じる道との分岐点だった。

猿投へ通じる「さなげ道」は、山口合宿が猿投神社へ参拝する際に通った。文政から天保年間(1818～1843)に描かれた『尾張年中行事絵抄』の「猿投祭礼 尾張馬 山口合宿」には、合宿により長蛇の列となった隊列が、山口川の平地を通り猿投神社に向け山道に入っていく様子が描かれ、まさにここの分岐点周辺の様子を描いたものとみられる。

道標には道祖神が彫りだされており、宝珠を両手で持っている単体の像である。

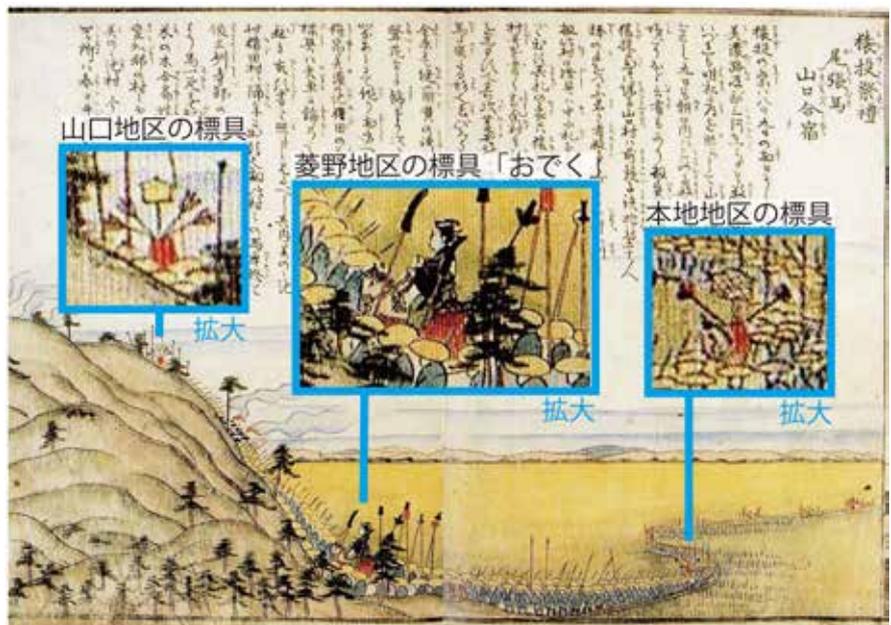
### 【参考文献】

瀬戸市教育委員会 1982『瀬戸の石造物』

服部誠 2001「社会生活」『瀬戸市史民俗調査報告書 1 幡山・今村地区』



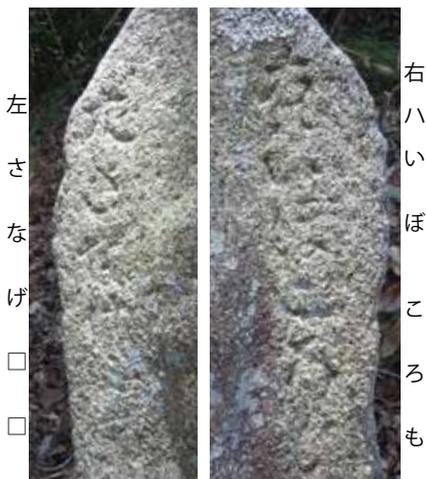
さなげ道の道標（上之山町2丁目）  
道祖神の右に「右ハいぼころも」、  
左に「左さなげみち」、  
台座に「天保八年丁酉二月吉日」  
と刻銘



『尾張年中行事絵抄』「猿投祭禮 尾張馬 山口合宿」



三州街道の八草・挙母道と広見・猿投道



## 2407 庚申塚・馬頭観音・道標（道祖神）

それぞれ菱野町の別の所にあったが、県道の工事に伴い、この地へ集められた。左は庚申塚で、中央は馬頭観音である。右の道標は道祖神で、人が行きかう街道に建てられた。

道標には道祖神が彫りだされており、宝珠を両手で持っている単体の像である。像の左右には「左 世とみち 右 ころも道 安政四巳年」と刻まれている。移動する前は、右の東方面に山口村を通過して拳母村(現豊田市)へ繋がる道と、左の北方向に瀬戸村へ繋がる道との分岐点にあったと考えられる。

毎年8月第3日曜日に庚申碑祭が、町内の住民によって行われる。



菱野町の道標（道祖神）



菱野町の庚申塚・馬頭観音・道標（道祖神）周辺地図



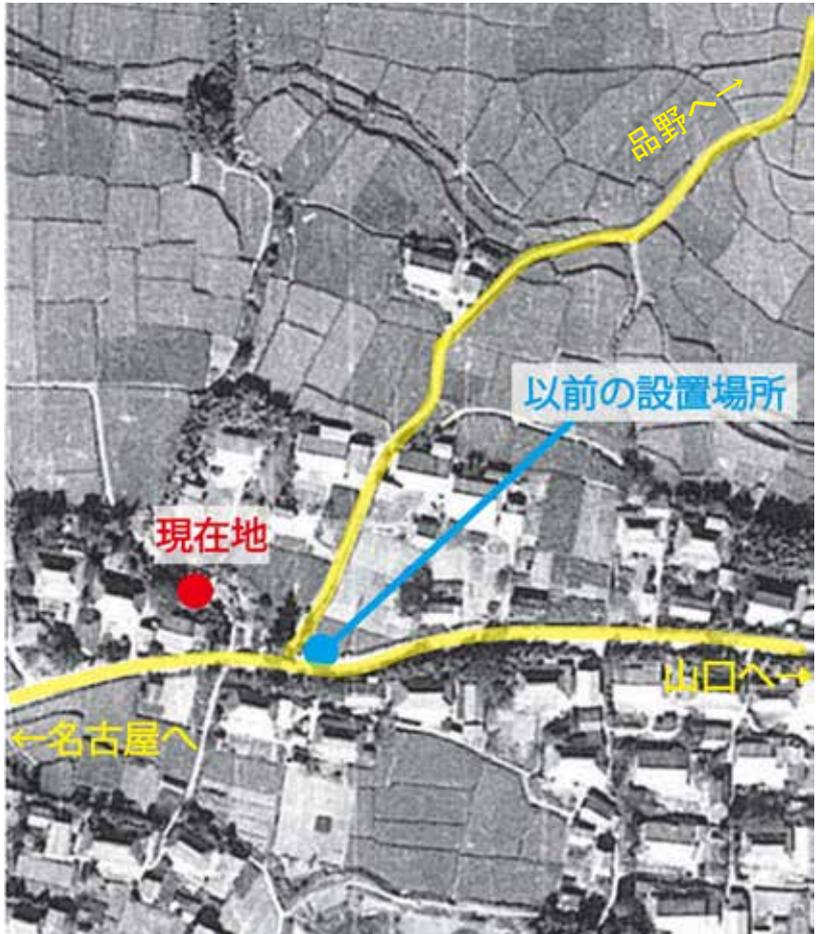
夏季に行われる庚申碑祭(右端が道祖神の道標)(令和6年8月18日)

この道標は、高さ約 90 cm、横幅約 70 cmの自然石の平滑な面に「左 せとしなのより ぜんこうじみち 右 山口よりさなげみち」と彫られたもので、裏側には「慶應四辰二月」(1868)と制作年月が刻まれている。秋葉山の常夜燈と津島神社など 5 社が祀られている一角に移されたものである。

元々は、天王川を挟んで現在地から約 50 m 東にあった大きな桜の木(大桜)の付近にあり、道路拡幅のため現在の場所へ移動したものである。左は菱野村など通って品野村その先は信州の善光寺へ、右は山口村など通って猿投神社に通じる道の分岐点だった。現在は品野村に通じる道は中断されているが、昭和 32 年の航空写真では確認することができる。

【参考文献】

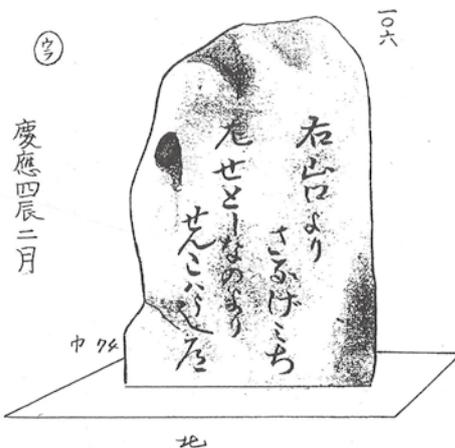
村瀬一郎 1995 『瀬戸歩き 瀬戸の石ぶみ』



道標の当初の設置場所と三州街道(山口道)と「ぜんこうじみち」



大桜の道標がかつて設置されていた場所



大桜の道標スケッチ (村瀬 1995 より)

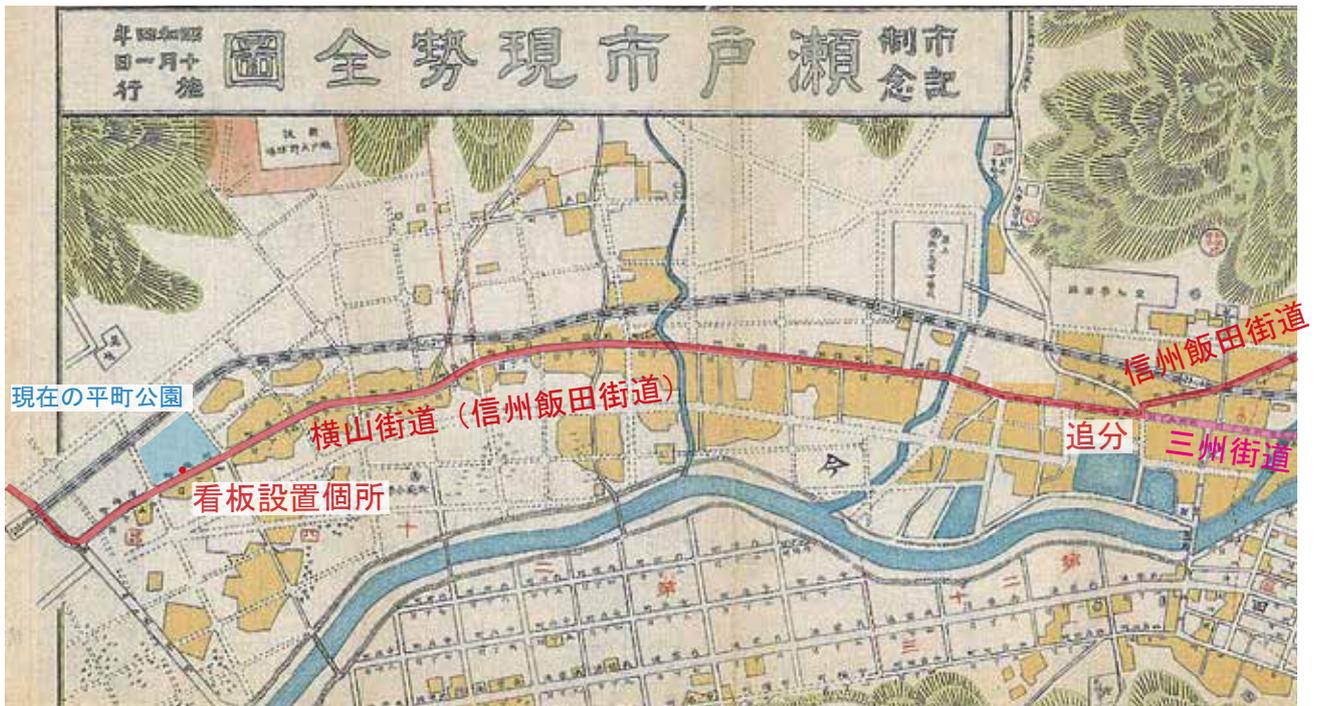


大桜の道標

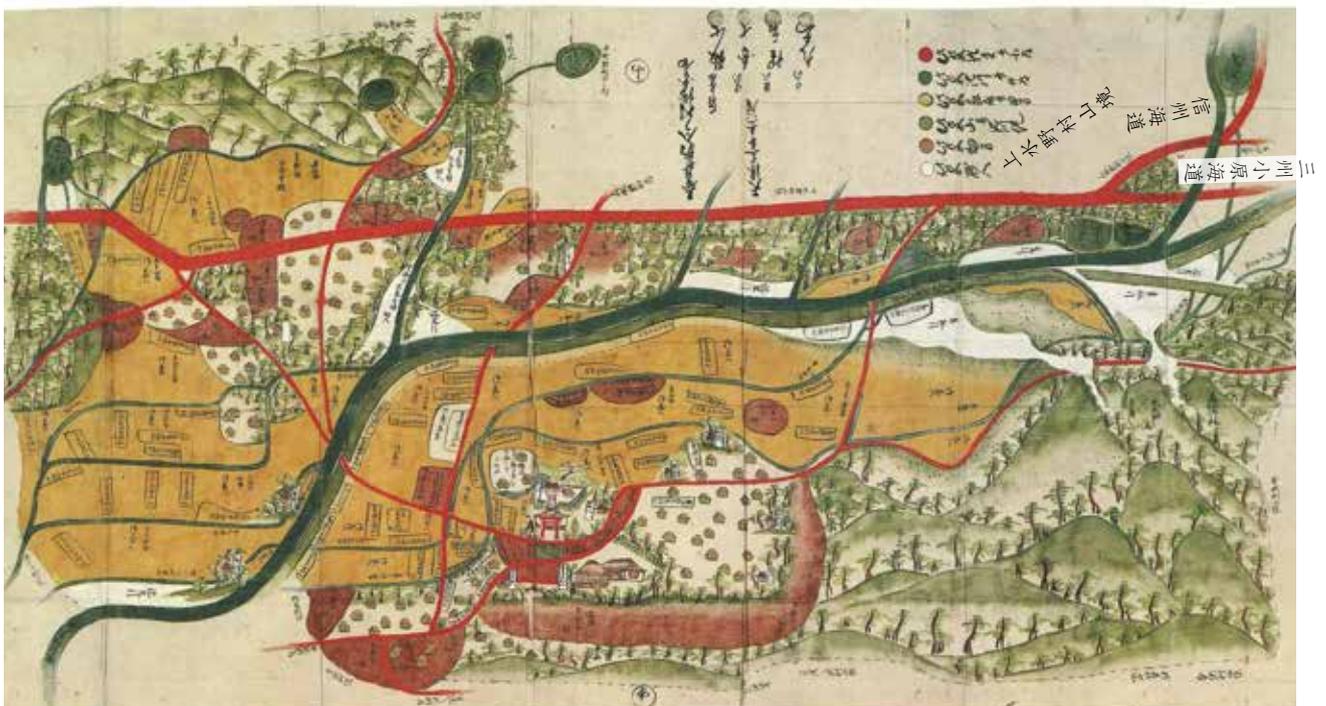
## 2409 横山街道（信州飯田街道）

信州飯田街道のうち大曾根から追分までは瀬戸街道と呼ばれている。その内、根ノ鼻公園から平町公園の南の市道を東へ進んだ追分町まで約 2.5km の東西の区間が横山街道と呼ばれ、菓子屋、宿屋、馬宿、食べ物屋などが軒を並べた。

天保 12 年 (1841) の村絵図にはこの街道が描かれ、昭和 4 年 (1929) の瀬戸市現勢全図にも家並みが続く様子が描かれている。

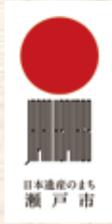


『昭和 4 年施行瀬戸市制記念 瀬戸市現勢全図』に信州飯田街道・三州街道を重ねる



『春日井郡今村絵図面』天保 12 年 (1841) に描かれた信州飯田海道・三州小原海道

瀬戸市歴史文化基本構想を推進するため、  
瀬戸市の各地区から  
歴史文化に詳しい市民が参加して  
ワークショップを行い、  
「瀬戸」の重要な文化遺産のものがたりを  
4つ選び出しました。



本事業は、平成31年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業(文化芸術振興費補助金)を活用して実施しています。

お問い合わせ

瀬戸市歴史文化基本構想を活用した観光拠点形成のための協議会

0561-84-1093

[瀬戸市地域振興部文化課]

# せと

せとの魅力は「せともの」だけじゃない?  
市民が推す四つのせと物がたり



新時代の  
ツクリテは  
何処に?

せと物がたり 1

尾張・三河・美濃  
三国の  
交わる場所



せと物がたり 2



美しい自然に  
親しむ



せと物がたり 3

マメ女匠

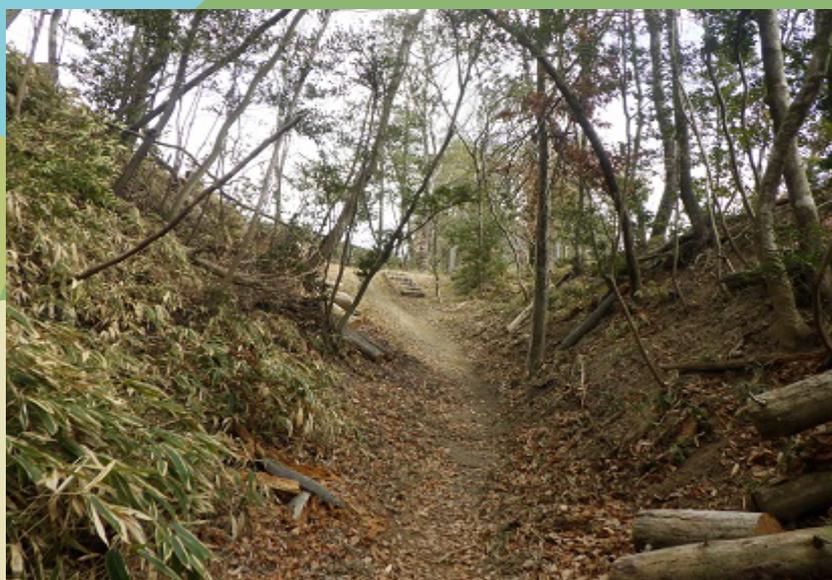
祭りと伝承



せと物がたり 4



物がたりの舞台を巡りながら、  
せとの魅力を再発見してみよう!  
新開設!「せと物がたり」はコチラから



# 春の信州飯田街道を歩く

日時 / 令和7年4月26日(土) 午前9時～12時

集合・解散場所 / 文化センター北駐車場

参加無料  
要事前申込  
(定員15名)

信州飯田街道は、江戸時代の中山道や下街道の脇往還として信州や東濃と瀬戸・名古屋を結ぶものでした。この街道沿いで馬の荷を載せ換える「中馬」が盛んであったことから、明治時代以降「中馬街道」とも呼ばれていました。瀬戸の品野地区には往時の状況を良好に遺す区間があり、令和元年に文化庁の「歴史の道百選」に選定されました。このうち「雨沢峠」から「坂瀬坂」までの2.6kmの道のりを、季節を感じながら植生や歴史的景観について解説付きで歩きます。

※少雨決行。下り坂で急所難所の**山道を自力で歩ける方**のみ、山道を歩ける服装でご参加ください。

こちらのQRコードからもアクセスできます。

Webで「あいち電子申請システム 瀬戸市」を検索の上、「せと歴！ 春の信州飯田街道を歩く」よりお申込みください。

※インターネットでのお申込みが困難な場合は、電話(0561-84-1740)・FAX(85-0415)でも受け付けます。

- ・申込は3月26日(水)から4月15日(火)までです。
- ・申込多数の場合は抽選となります。4月18日(金)までに抽選結果をお知らせします。

